

# 令和7年度 福井東特別支援学校 学校関係者評価書

## (問)

- ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
- ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か

## (意見を聞いた方)

福井県立大学教授	<input type="checkbox"/>	清水 聡	様
就労継続支援A型ネクステクノ事業所長		足田 耕二	様
YOLO-FUKUI代表理事		北山 知春	様
P T A会長		坪内 博美	様

## 1 教育課程・学習支援・研究研修

- ・研究会では、所属学部を解いたメンバーで協議していることが有効である。教師のつながりにより小・中・高と長期的な視点を持つことができるメリットがあり、子どもたちにも良い効果をもたらす。
- ・自己有用感を養う教育の実践は、将来に向けた本人の自立にもつながる大切なことである。
- ・「ほんものの体験」をキーワードにした授業の工夫について、「ほんもの」の力はとても大きく子どもたちには良い影響がある。

## 2 家庭地域との連携・進路支援・生徒支援

- ・五施設が入る施設内にある学校ならではのメリットを生かして、他機関にも学校教育に参加してもらうなど自然な形での連携ができています。
- ・就労選択支援など新しい制度についての研修を取り入れて、卒業後へのつながりも意識できている。
- ・子どもたちが地域社会と「つながる」取組を意識しており、今後も継続していくことで成果を体感できるようになる。

## 3 安心・安全

- ・医療的ケア児の通学支援がスタートし、安心して通学できることが教育を受けることの保障にもつながっている。
- ・医療的ケア児6名が参加する関西方面の修学旅行が、医師や学校看護師の協力のもと実行できたことがよかった。
- ・防災訓練では実際の場面を想定した「煙体験」を盛り込むなど工夫がみられた。

## その他

- ・学校全体の通年のテーマのもと一貫した教育活動が行われている様子が伺える。今年度の良い取組を継続していくことが大切である。
- ・子どもたちが失敗しても「次はどうする」と考える中で、人に頼ることも含め成功の体験につなげていくことが大事である。また自己有用感も大切なので、今後の教育活動の中で意識して取り組んでほしい。
- ・良い取組が多くあり継続してほしい反面、教職員の過重な負担のチェックなど、業務改善とともに進めてほしい。

## (学校関係者評価を踏まえた今後について)

- ・引き続き「自立活動における授業の充実」研究テーマに掲げ、全教職員の視点で児童生徒の実態把握しながら授業づくりにつなげていく。
- ・子どもたちにとって「学校は楽しくて面白くて得をるところ」となることが大切である。挑戦を肯定し、失敗から学ぶ力の育成や振り返りと再挑戦を支える指導・支援を全教職員の共通の姿勢としていく。
- ・来年度も継続して、地域社会と「つながる」場面づくり、「ほんものの体験」ができる授業づくりを意識して教育活動を行う。